

《医療センターの現状と課題》 P.2～8

現状の課題

①設備の老朽化 ⇒ 救急部門等の一部機能停止の恐れ

- ・新耐震基準の建物であるため、耐震性能は満たしているが、24時間365日稼働しているA館・B館の各部門（救命救急部門、ICU部門、手術部門等）においては、医療行為を停止できないことから、設備更新工事が行えず、老朽化が加速している。

④災害拠点病院としての機能

- ・敷地内ヘリポートが整備されていない。

②施設の狭隘化 ⇒ 医療サービスへの対応が困難

- ・増築により建物を繋ぐ廊下等の面積の割合が高く、特に、診療部門の実質的な面積が小さくなっている。
- ・病棟、外来、手術室などの診療部門の面積が、同規模病院と比較して小さい。
- ・現有敷地内に手術室や外来診療室などを増改築することは不可能であり、医療サービスへの影響も確認された。

⑤駐車場の分散配置

③施設機能の分散配置

- ・増築を繰り返しているため、手術部門、放射線部門、検査部門、管理部門等の機能が分散し、極めて非効率で、わかりにくい配置である。
- ・患者搬送ルートと、食事の運搬ルートや医療廃棄物の運搬ルートなどのバックヤード機能が交錯している。

⑥医療スタッフの労働環境

医療センターが担っている役割

①救命救急センター

- ・三次救急医療機関
- ・ドクターカーシステム
- ・地域の小児救急の中核（地域小児科センター、船橋市小児二次救急医療機関）
- ・重度外傷センター

②地域がん診療連携拠点病院

③地域医療支援病院

④災害拠点病院（地域災害医療センター）

⑤臨床研修指定病院



継続しながら発展

《医療センターに求められている機能等》 P.9～11

①救急医療を主体とする急性期医療の充実

- ・救命救急センターの拡充
- ・東葛南部保健医療圏における救急の拠点として、機能の充実・強化

②高度医療を担う総合診療機能の充実

- ・患者への負担の少ない低侵襲治療の実施
- ・最新治療への対応（手術支援ロボット等最新の高度医療機器の導入、ハイブリッド手術室の整備）
- ・手術後の高度な身体管理（ICU、HCU、SCU等の必要な病床数の確保）
- ・診療科のセンター化によるチーム医療の充実

③地域医療連携の強化
地域包括ケアシステムへの対応

- ・地域医療連携室の強化、地域の医療機関との連携
- ・在宅療養患者等の緊急受入病院の支援

④災害拠点病院としての機能の充実

- ・地域の中心的存在としての災害救急医療への対応
- ・ヘリポートの敷地内整備
- ・被災者の収容スペースの確保

⑤患者サービスの向上

- ・患者の視点に立った病院づくり（ホスピタリティのある安心して療養できる環境の整備、内視鏡治療などの患者への負担が少ない治療を提供できる環境の整備等）
- ・患者及びその家族が、治療上の不安や悩みを相談でき、総合的な支援を行う部門の整備
- ・多様化するニーズに対応した、適切で効率的な医療の提供

⑥臨床研修指定病院の充実
医師・看護師等の育成及び確保

- ・新専門医制度における、基幹病院・連携病院としての対応
- ・“職員にとって魅力ある病院”づくり（マグネットホスピタルとしての評価）
- ・労働環境の充実（ホスピレートの認証取得）
- ・研修体制の充実、人材育成

⑦経営基盤の強化

- ・経営分析部門の強化
- ・効率の良い病院整備

《新しい医療センターの移転整備に向けて》 P.12～16

(1)移転整備の必要性

現状の課題を解決し、現在担っている機能を継続しながら発展させ、さらに、求められる将来像へ対応していくには、現在の施設では限界があり、全面的な建て替えが必要である。

建て替えにあたっては、増改築等による対応も考えられるが、現在の敷地のみでは十分なスペースがなく、仮に増改築を行えるとしても、必要な機能を備えるまでには非常に長い期間を要するため、現実的には不可能である。

このことから、移転による建て替えが最も望ましいとの結論に至った。

(2)移転候補地

現在の医療センターは、ほぼ市域の中心部に位置しており、救急医療の関係を考慮し、移転候補地は、現在の位置を中心とした周辺地域が望ましい。

医療センター移転候補地として、「海老川上流地区のまちづくり」予定地の地区内とすることが船橋市として検討されており、当該地区は、望ましい条件を満たすものであり、医療センターの機能を十分に発揮できる候補地と考える。

できるだけ早期の移転が可能となるよう、「海老川上流地区のまちづくり」を早急に進めていただくことを当検討委員会として強く要望する。

(3)病院規模の検討

- ・船橋市や東葛南部保健医療圏において将来必要となる病床数を推計し、市民に対して適切な医療サービスを提供できる体制の確保が必要である。
- ・他の病院とどのように機能分担を図るのか、このうち、医療センターが担うべき機能・役割は何かをより具体的に検討していくことを望む。
- ・今後、国や県（地域医療構想等）の動向に注視しつつ、千葉県保健医療計画改定時に示される基準病床数に備え、準備を進めていくことが求められる。

(4)多様化する医療ニーズへの対応

- ・多様化する医療ニーズに対応するとともに、現在有していない「感染症医療」、「精神科医療」など、医療機能の拡充についても検討が必要である。
- ・将来の医療動向の変化や医療技術・医療機器の変化・更新等に対応しやすい施設整備を目指すことが重要である。

(5)信頼される病院づくり

- ・地域の中核病院として、市民の安心・安全を確保し、地域の医療を支えることが必要であり、「市民から信頼され、選ばれる病院」を目指していくことが重要である。
- ・安定した経営のもと、高度な医療を継続して提供していくことが必要である。
- ・新病院の整備にあたっては、さらに魅力ある病院づくりを目標に「市民からもスタッフからも選ばれる病院」を目指していかなければならない。

(6)既存病棟の活用

- ・現在の敷地から移転して新病院の建て替えを行う場合において、この新病院が担う機能の検討と併せ、現敷地内にある比較的建築年数の浅いC館、E館などの活用方法等についても、今後検討を進めていく必要がある。